

# 一般社団法人日本セパタクロー協会 ドーピング防止規程

(世界ドーピング防止規程及び日本ドーピング防止規程の採択)

第1条 一般社団法人日本セパタクロー協会(以下、「当法人」という。)は、世界ドーピング防止規程(以下、「WADA 規程」という。)及び日本ドーピング防止規程(以下、「JADA 規程」という。)を受諾、採択し、両規程に基づき、ドーピング・コントロールの開始、実施に対する責任を負う。

- 2 ドーピング防止に関し、本規程に具体的定めのない事項は、WADA 規程及び JADA 規程の定めるところによるものとする。
- 3 WADA 規程及び JADA 規程において定義づけされている用語は、本規程において、その定義通りに使われているものとする。
- 4 本規程は、WADA 規程及び JADA 規程に従い解釈されるものとする。

(適用範囲)

第2条 本規程は、以下の者に適用される。

- (1) 当法人及びその会員
- (2) 当法人傘下の会員
- (3) 競技者

国際的な水準及び国内的な水準のセパタクロー競技者及び当法人の管轄に服するその他の競技参加者。

- (4) 競技者支援要員

当法人の管轄に服するセパタクロー競技会に参加し、又はそのための準備を行う競技者と共に行動し、治療を行い、又は支援を行う指導者、トレーナー、監督、代理人、チームスタッフ、公式役職員、医師、医療従事者、親又はその他の人。

(ドーピングの定義)

第3条 ドーピングとは、次条に定められている一又は二以上のドーピング防止規則に対する違反が発生することをいう。

(ドーピング防止規則違反)

第4条 当法人は、第1条により、WADA 規程及び JADA 規程を採択し、アンチ・ドーピング規則違反項目の内容を本規程に組み入れる。具体的には次に掲げるものがドーピング防止規則違反を構成し、ドーピング防止規則を犯すことは、本規程に違反する。

- (1) 競技者の検体(尿や血液)に禁止物資が存在すること

- (2) 競技者が、禁止物質若しくは禁止方法を使用すること又はその使用を企てること。
- (3) 検体の採取を拒否し、若しくはやむを得ない理由によることなく検体の採取を行わず、又はその他の手段で検体の採取を回避すること。
- (4) ドーピング・コントロールの一部に不当な改変を施し、又は不当な改変を企てること。
- (5) 競技者が居場所情報関連の義務を果たさず、競技会外の検査への参加に関する要請に違反すること。
- (6) 正当な理由なく禁止物質又は禁止方法を保有すること。
- (7) 禁止物質若しくは禁止方法の不正取引を実行し、又は不正取引を企てること。
- (8) 競技会において、競技者に対して禁止物質若しくは禁止方法を投与し、又はこれらを企てること。
- (9) ドーピング防止規則違反を手伝い、促し、共謀し、関与する、または関与を企てること
- (10) ドーピング規則違反に関与していた人と当法人主催の競技会および関連行事で関係を持つこと
- (11) ドーピングに関する通報者を阻止したり、通報に対して通報者本人、またはその家族、友人に対して身体、精神、経済的利益を及ぼす行為を行う、または企てること

- 2 ドーピング防止規則違反を犯したか否かを判断するために、WADA 規程及び JADA 規程の各第 1 条(規則の適用)、第 2 条(ドーピング防止規則違反)、第 3 条(ドーピングの証明)、第 4 条(禁止表)、第 5 条(検査)、第 6 条(検体の分析)及び第 17 条(時効)が適用される。

(当法人の役割及び責務)

第5条 当法人は、第 1 条により、WADA 規程及び JADA 規程を採択し、その内容を本規程に組み入れる。具体的には以下の役割及び責務を担う。

- (1) 当該ドーピング防止規程が WADA 規程及び JADA 規程に準拠すること。
- (2) 当法人の管轄に服する競技大会を対象として、WADA 規程及び JADA 規程に準拠したドーピング防止対策を実施するとともに、それに伴う JADA の責任と権限を認めること。
- (3) 当法人の管轄に服する競技大会において、全ての競技者、競技者支援要員に対し、本規程に適合するドーピング防止規則に拘束されることに同意することを、当該参加の要件として要求し、遵守させること。
- (4) 競技者支援要員又はその他の人が、各ドーピング事件に関与しているか否かの調査を含む、当法人の管轄内におけるすべてのドーピング防止規則違反の可能性を積極的に追及すること。
- (5) ドーピング防止教育を推進すること。
- (6) 関係する国内機関及び公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構(以下、「JADA」という。)その他のドーピング防止機関と協力すること。

- (7) JADA または当法人または競技者に対し権限を有する他のアンチ・ドーピング期間が要請した場合には、自身のコーチやアスレティックトレーナーを含むサポートスタッフの身元を開示すること

(競技者の役割及び責務)

第6条 競技者は、前条(3)において、本規程を参加要件として承諾したことにより、以下の役割及び責務を担う。

- (1) 本規程に基づき導入されたドーピング防止対策及び規則をすべて理解し、遵守すること。
- (2) 検体採取に応じること。
- (3) ドーピング防止との関連で、自己の接種物及び使用物に関して責任を負うこと。
- (4) 医療関係者に対して自らが禁止物質及び禁止方法を使用してはならないという義務を負っていることを伝達するとともに、自らが受ける医療処置についても、本規程に基づき導入されたドーピング防止対策及び規則に対する違反に該当しないようにすること。

(競技者支援要員の役割及び責務)

第7条 競技者支援要員は、第5条(3)において、本規程を参加要件として承諾したことにより、以下の役割及び責務を担う。

- (1) 本規程に基づき導入されたドーピング防止対策及び規則のうち、自己に適用されるもの、又は支援を行う競技者に適用されるものをすべて理解し、遵守すること。
- (2) 競技者の検査プログラムに協力すること。
- (3) 競技者の価値観及び行動に対して、自らの影響力を行使して、ドーピングを行わない態度を醸成すること。

(検査の承認)

第8条 当法人は、WADA 規程及び JADA 規程に従い、ドーピング防止機関(JADA を含む。)が行う検査の分析結果を承認する。

(ドーピング防止規則違反の承認)

第9条 当法人は、全てのドーピング防止機関による、人がドーピング防止規則違反を犯したとの決定を承認し、かつ尊重する。ただし、その認定が、WADA 規程及び JADA 規程に準拠し、関連団体の権限に基づく場合に限る。

(制裁措置)

第10条 ドーピング防止規則に違反した場合、WADA 規程及び JADA 規程に基づく制裁措置に従うものとする。

(通知)

第11条 本規程に基づいて制裁措置が課せられた場合には、当法人は、課せられた制裁措置の詳細を下記宛てに送付する。

- (1) 公益財団法人日本オリンピック委員会
- (2) WADA 規程第 14.1 条及び JADA 規程第 14.3 条に基づき、通知を受ける権利を有する者
- (3) 当該人の国際競技連盟
- (4) JADA
- (5) 当法人が通知を必要と考えるその他の人

(不服申立て)

第12条 不服申立てについては、JADA 規程第 13 条(不服申立て)の規定に従うものとする。

(制裁措置の取り消し及び報告)

第13条 ドーピング防止規則違反を犯したとして記録された者が後日、当該ドーピング防止規則違反を犯していないことが判明した場合、又はその他の誤りが CAS、日本スポーツ仲裁機構又はドーピング防止機関により明らかになった場合、当法人は、ドーピング防止規則違反及びその違反の結果として課せられた制裁措置を取り消すものとし、第 11 条(通知)により制裁措置が課された旨を通知した全ての人に対し、そのことを報告するものとする。

(主管部門等)

第14条 本規程の実施および維持管理は、医科学委員会が行うものとし、本規程の改正は理事会の決議によるものとする。

- 2 医科学委員会は、本規程を実施するために必要な細則を定めることができる。

附 則

1. この規程は、平成26年4月1日から施行する。
2. 本改定は、令和 3 年 6 月 14 日から施行する